

「t-PA 静注療法 を知って頂けますか」

急に手足が動かない、言葉がしゃべれない、そのような方を見かけたら

**脳梗塞とは
どんな病気ですか。**

脳梗塞とは、脳へ血液を送る動脈が詰まるために起こる病気です。脳への血管が詰まってしまふとその先にある脳の細胞へ血液（栄養）が流れなくなると、脳の細胞が死んでしまいます。それが脳梗塞です。脳梗塞をはじめ脳卒中は突然起こるのが特徴です。また、様々な障害を起こし、幸いに一命を取り留めても、後遺症が残るといふ最大の

難点があります。脳梗塞を含めた脳卒中は、がん、心臓病などに次いで日本における死因の大きな原因であり、また「ねたきりになる原因」として一番多く、全体の3割近くを占めています。

脳梗塞の症状にはどのようなものがありますか

脳梗塞は、いろいろな機能を持つている脳の細胞がやられてしまう病気ですので、その症状も様々です。梗塞状態がひどいと、最悪の場合は死を招く場合もありますが、血栓（血の塊）によって血液の流れが止まってしまった場所によって、引き起こ

される障害は違ってきます。つまり脳細胞のどの部分が死んでしまったかによって障害が違ってくる訳です。多くの場合は次のような症状を引き起こします。

- 1 手足がしびれたり、動かなくなる。箸や茶碗を落とす。足がもつれる。
- 2 突然言葉が出なくなる、つじつまの合わない会話になる
- 3 ろれつが回らなくなる
- 4 ものが二重に見えたり、見える範囲が狭くなる
- 5 めまいがしてふらつく

こうした症状のうち一つだけが出現することもあります。

いくつか症状が重なって起こることもあります。

脳梗塞の症状を起している方をみかけたら

可能な限り早く専門病院を受診することが必要です。その手段としては救急車を呼び、脳卒中の専門病院で診てもらってください。いくつか症状が重なるような重症の場合はもちろん、症状がひとつだけのような軽症と思われるような時も救急車を呼んでください。これは一刻も早く専門病院に搬送し、治療を開始するためです。また普通に受診し、待っていることで症状が悪くなる危険性もあるからです。

なぜ一刻も早く治療が必要なのでしょうか

脳の細胞に血流が途絶え、完全に死んでしまふと後遺症が残ってしまいます。しかし血流がなくなつてから脳細胞が完全に死んでしまふまでに数時間かかるといわれています。その間は一時的に機能がストップしてい

るだけなのです。血流がなくなつて脳細胞が死んでしまふまでは仮死状態にあります。仮死状態にある脳の細胞に血流を回復させればストップしていた機能も回復し、脳梗塞を免れることもできます。したがつて脳梗塞の最も効果的な治療は、症状が起こつてから時間がたつていない早期に血流を回復させることにあります。治療の効果には時間の制約が関係しているのです。

**早期に行える治療
経静脈血栓溶解療法
(t-PA 静注療法)**

現在、もっとも有効とされる治療法です。t-PA（アルテプラーゼ）という血栓を溶かす薬剤を点滴すると、ほとんど後遺症なく自宅に帰ることができます。患者さんが、t-PA を使わない場合と比べて、明らかに増えることがわかっています。日本でも2005年からこの治療が保険適応となり、当院でもたくさんの方の脳梗塞を防ぐことができています。しかし発症して時間のたつた脳梗塞では出血を起こしてしまうことが多い

め、発症4.5時間以内しか使うことができない治療となっています。早期に救急車で搬送する必要がありますのはこのためです。当院は脳卒中の専門病院でもあり、このような脳卒中治療を積極的に取り組んでいます。早期の血栓を溶かすことだけでなく、後遺症に対するリハビリや脳梗塞発症予防も行つていくことも大切と考えて今後も脳卒中治療に取り組んでいきたいと思つております。

今月の先生



岐阜市民病院 脳神経外科
玉川紀之 先生

○役職
脳卒中センター長
脳神経外科副部長
救急診療部副部長
集中治療部副部長